

## 平成24年度第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成24年6月8日10時から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

### (議事内容)

- |     |  |
|-----|--|
| 場 所 | 秋田商工会議所 7階 ホール80   |
| 出席者 | 委員：15名 オブザーバー：4名   |
| 協 議 | (1)平成23年度事業報告・収支決算について(監査報告)<br>(2)平成24年度事業計画(案)・収支予算(案)について<br>(3)秋田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況および今後の対応について<br>(4)秋田駅西口バスターミナル建築に関する協力について<br>(5)監事の選任について       |
| 報 告 | (1)中通一丁目地区市街地再開発事業の現況について<br>(2)新秋田県立美術館暫定オープンイベントの概要について<br>(3)中心市街地循環バスの社会実験運行について<br>(4)大町地区の近況について<br>「イーホテルショッピングモール」の動向<br>「大町商店街再生プロジェクト事業(案)」の概要 |

### 結果報告

渡邊靖彦会長が開会挨拶を行った後、会議の進行をした。

協議案件について、案件(1)「平成23年度事業報告・収支決算(案)について」事務局より説明後、佐々木監事より監査報告があり、原案通り承認された。案件(2)「平成24年度事業計画・収支予算(案)について」事務局とタウンマネージャーより説明をし、原案通り承認された。今年度は「エリアなかいち」のオープンインパクトを活かし、中心市街地商店街、秋田商工会議所、放送局が連携した「中心商店街プロジェクト事業」を実施し、個店の魅力発信、中心市街地への来街促進を図り継続したにぎわい創出につなげるよう積極的に事業に取り組んでいくこととした。案件(3)「秋田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況および今後の対応について」秋田市都市整備部まちづくり整備室三浦副参事が説明。今年度末には、認定基本計画の期間が終了となることから、今後の方針について協議し意見提言を行うこととした。案件(4)「秋田駅西口バスターミナル建築に関する協力について」事務局および秋田中央交通(株)伊藤専務より説明。今後、事務局で進め方等打合せしながら、当協議会委員からも意見をいただき進めていくこととした。(5)「監事の選任について」事務局より説明をし、監事には、秋田市都市整備部長土田誠様をお願いすることとし承認された。

協議案件について、委員、オブザーバーより、質疑および意見の発言があった。

## 協議（２）平成２３年度事業計画（案）・収支予算（案）について

佐々木委員（秋田市広小路商店街(振)）

・２０年来係わってきた中通一丁目再開発地区の「エリアなかいち」がオープンすることは喜ばしいことである。

中心市街地全体を考えた時、現場に近い組織、２４時間まちづくりを考えて動く実行部隊のような組織が必要である。ＴＭＯをスピード感を持って設立してほしい。現場で即時に対応できる組織をつくるのは、今がチャンスだと考える。ＴＭＯの組織化を考えてほしい。

渡邊会長

・今後のまちづくりは現場に近く、スピード感のあるものが必要である。どのように進めていくかを秋田市と会議所で検討していきたい。

内藤にぎわい創出担当官（秋田市）

・「エリアなかいち」のオープンを機に、今後の中心市街地全体のにぎわいを考えることは必要である。しかしながら、全国的にＴＭＯの成功事例は少ない。

事務局

・スピード感を持っての現場対応については、我々も反省しないといけないと思っている。現場で考え動いていく組織は必要であると思うが、ＴＭＯについて即決で答えることはできない。まちづくり会社との連携も含めて真摯に受け止めて考えたい。

佐々木委員（秋田市広小路商店街(振)）

・国の公募事業を活用するにも、補助金が３分の２であっても、３分の１を商店街で負担することが出来ない場合が多い。また、補助金を活用するための根回しとして、知恵とコネクションを使って、現場目線で迅速に対応していただきたい。

中心市街地にはたくさんの宝がある。例えば、木内の２Ｆ、３Ｆを活用して「あぶらやコレクション」の展示や昔の食堂の再現など、宝として価値のあるものを見せてやりたい。ＴＭＯがあれば実現できるのではないか。

河村タウンマネージャー

・公募事業は、採択されて始めて事業が実行できる。そのためにも、迅速な対応が必要であるため、行政および関係機関の協力は不可欠である。

ＴＭＯによる中心市街地活性化事業における効果測定では、効果が上がっていると測定されたケースは少数である。アメリカのようなＢＩＤ方式で、必要な事業を積極的に遂行できるような組織づくりが必要ではないか。

多田副会長

・平日の日中のにぎわいは、高校生や大学生が集まらなると生まれてこない。アルヴェで無料で使用できるスペースの設置をしてから、若者が集まりにぎわいが生まれている。「エリアなかいち」を含め中心市街地において、どのように若者の意見を取り入れ、集まれる場所を提供していくのか。

また、「エリアなかいち」のオープン後、夜のまちにどのように人を集めるのか。

#### 河村タウンマネージャー

- ・若年層をターゲットとした「ミステリーイベントGASA」を実施する。中心市街地商店街の個店に設置された謎を解きながら回遊することで、商店街への来街を促進し、商店街や各個店の認知度を上げていきたい。

また、大学生団体「ATMU」と連携し、中心市街地情報マップの作成に参画させ、若者の視点から見た中心市街地内の個店等情報発信事業を実施する。

#### 事務局

- ・夜のまちなぎわいについては、ネットワーク研究会で実施したSWOTの中で、店舗の夜間の営業時間について話はあった。にぎわい交流館は12時までの営業と聞いているので、そのことも踏まえ、この件については、ネットワーク研究会で検討していきたい。

### 協議（3）秋田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況および今後の対応について

#### 佐々木委員（秋田市広小路商店街(振)）

- ・基本計画内事業を、ウエイトづけで羅列してほしい。

駅～「エリアなかいち」までの仲小路の整備はほぼ完成しているが、木内の裏通りの整備はなおざりになっているように感じられる。計画はあるのか。

#### 三浦副参事（秋田市）

- ・基本計画の事業ごとにウエイトづけするのではなく、40事業一体となって、計画を推進する。木内の裏通りの整備について現在計画はない。持ち帰りで検討する

#### 斉藤委員（川反外町振興会）

- ・事業予算がないと言われる。それでは、いつもまで経っても進まない。

#### 佐々木委員（秋田市広小路商店街(振)）

- ・事業予算の優先順位はついているはずである。

#### 佐々木委員（NPO 法人 秋田バリアフリーネットワーク）

- ・「エリアなかいち」が拠点になることは間違いないと思う。インパクトのある拠点となってほしい。

- ・事業予算がなくて出来ないのはわかるが、まちづくりとして単発で終わってしまうのはダメ。回遊性を重視し歩行者優先で、人の流れを呼び込む視点のまちづくりをしてほしい。

次に、報告（1）「中通一丁目地区市街地再開発事業の現況について」は中通一丁目地区市街地再開発組合高橋理事長、「「エリアなかいち」オープニングイベントについて」は(株)アートシステム塩田氏から、報告（2）「新秋田県立美術館暫定オープンイベントの概要について」は秋田県教育庁生涯学習課小川課長から、報告（3）「中心市街地循環バスの社会実験運行について」は秋田市都市整備部まちづくり整備室渡部主席主査から説明を受けた。（4）大町地区の近況について、「イーホテルショッピングモール」の動向については、秋田商工会議所辻商業部会長、「大町商店街再生プロジェクト事業（案）」の概要については、秋田市大町商店街振興組合高堂理事長より情報提供がされた。

その後、意見交換に移り、委員から次のような意見や質問が出され、各担当者から説明があった。

### 報告（３）中心市街地循環バスの社会実験運行について

齊藤委員（川反外町振興会）

- ・循環バスの経路および運行時間は決定したのか。竿灯大通りを渡って人は来ない。運行時間が午後５時で終了するのであれば川反にメリットはない。

渡部主席主査（秋田市）

- ・通常のバス路線を運行すると民営圧迫をすることになるので運行はできない。また、時間設定は決定である。タクシー事業者およびバス運行事業者への圧迫を考え、通勤通学時間を省いて運行することになっている。

齊藤委員（川反外町振興会）

- ・この循環バスの経路では、にぎわいを出せる経路ではないと考える。

渡邊会長

- ・川反では納得いかないと思うが、今回の循環バスは社会実験事業であるということをご理解いただきたい。

今後は、必要に応じて協議会を開催し、意見交換をしていくこととし閉会した。

以上